

## 大会宣言（案）

この夏も連日の猛暑がニュースの常連となり、現場で働く仲間にとっては過酷な日々が続いている。さらに歴史的な物価・資材価格の上昇で実質賃金は下がり、我々の生活は厳しさを増している。消費減税、物価高対策、社会保障などが争点となっておこなわれた第27回参議院議員選挙では、自民、公明の与党が大敗し、衆議院に続き参議院でも少数与党となった。有権者の民意が反映されたにも関わらず、石破首相は続投を表明。混沌とした政治状況が続く。

建築物省エネ関連法の改正による駆け込み需要が影響し、新設住宅着工戸数は3年ぶりに増加した。リフォームの需要も高まる中だが、高齢化による人手不足は深刻化し、建設業の有効求人倍率も高い水準で推移している。

「いのち輝く未来社会のデザイン」を理念に開幕した大阪・関西万博。その関連工事で下請業者への工事代金の未払いが横行し、仲間の相談に真摯に対応してきた。

今、我々が取り組むべきことは、労働条件の改善をめざし、若年労働者が安心して働ける環境を整備していくことである。昨年、第三次担い手三法改正を勝ち取ることができ、中建審の下にワーキンググループが設置し2月の施行に向けて標準的な労務費の基準の作成、公共工事における労務費・賃金の確認手法などが検討されている。まさに賃金引き上げの気運が高まっていることから、それぞれの立場で勇気をもって「要求」「請求」「交渉」していくことを力強く訴えていく。

建設キャリアアップシステムの登録者数は、現場従事者の約半数を占めるが能力評価は進んでいないのが課題だ。制度への登録を呼びかけるとともに能力評価制度を周知して、仲間の処遇改善を後押ししていく。

インボイス制度が始まりまもなく2年が経過する中、いまだに「消費税分がもらえない」「受注価格が下がった」という声が多い。引き続き「負担軽減措置の延長と制度の見直し」を求めていく。

阪神・淡路大震災から30年を迎えた。震災の記憶を風化させないためにこれまでの経験を次世代の仲間へ伝えていく。全国各地で激甚災害が頻発する中、能登半島地震や奥能登豪雨災害での経験を活かし、応急仮設木造住宅建設時の労働者供給事業登録を呼びかけて、被災地の支援に協力していく。

保険証が廃止されてから初めての保険制度説明会をより充実した内容で企画していく。秋のハガキ要請行動から新たな形での取り組みを提起した。目標枚数以上を集約して、現行補助水準の確保・拡充を要求していく。

組合の組織数は減少傾向が続き、これ以上後退させてはいけない。兵庫土建共済など他にはない組合のメリットを前面に出して、未加入者に声をかけて従来の活動にプラスワンする行動に努め、組織堅持と増勢を勝ち取っていく。

戦後80年の節目を迎えた。昨年ノーベル平和賞を受賞した「日本被団協」は核兵器のない世界を実現すべく絶え間ない努力を積み重ねてきたが、いまだ世界各地で争いが絶えず「対立と分断」の道を突き進んでいる。他者への思いやりを大切にして、世界の恒久平和を求めていく。

すべての仲間が同じ思いで歩みをとめることなく運動を前進させて、未来へと繋いでいく。

大会の総意をもってここに宣言する。

令和7年8月31日

兵庫県土建一般労働組合 第77回定期大会